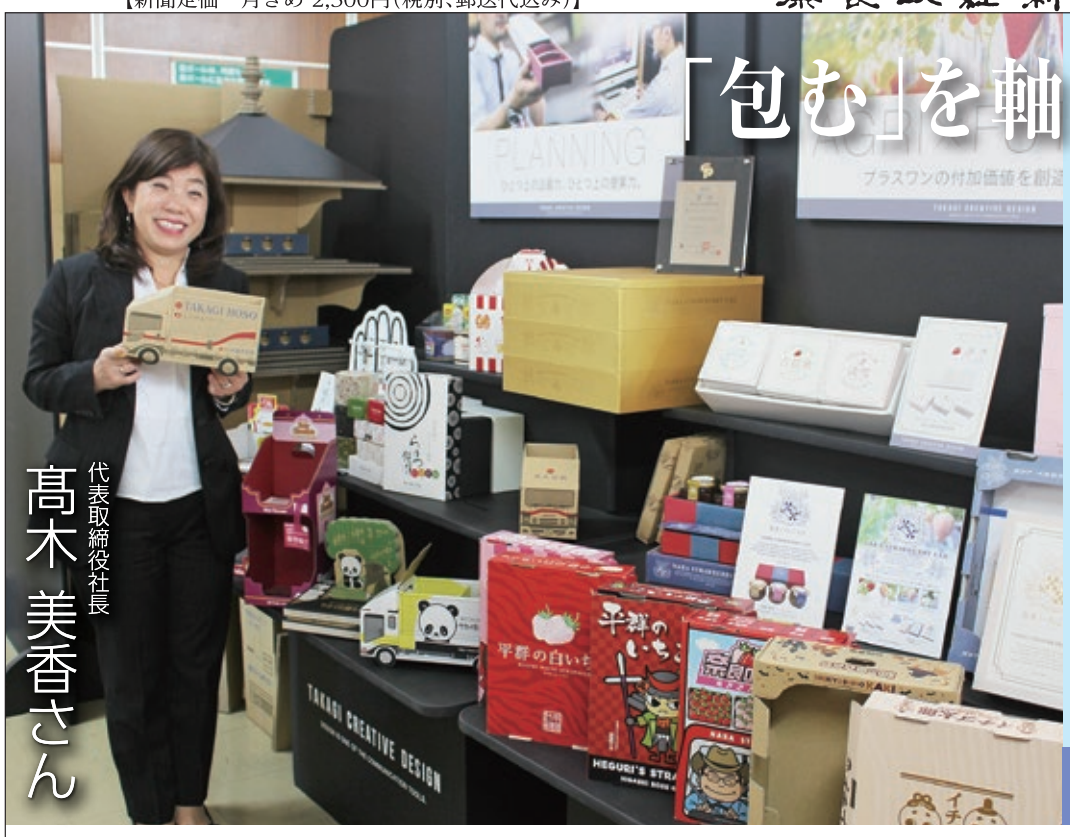
「包む」を軸とした包装文化の創造



代表取締役社長
髙木 美香さん

段ボールケースの製造企画販売の株式会社高木包装＝葛城市薑（はじかみ）＝は、昭和30（1955）年の創業で今年66年を迎えた。昨年の12月18日に83歳で他界した髙木正年氏が創業した。4年前の平成29（2017）年10月に父正年氏から引き継いだ営業畑の髙木美香社長（54）は、段ボールケースを本質とした「包む」包装文化の可能性を創造し続ける。製縄から段ボールで事業を固めた創業者の理念を「心のかようパッケージづくり」へと未来につなげる。

Made in 奈良

葛城市　**株式会社 高木包装**

段ボールケースの製造企画販売でけん引
「心のかようパッケージづくり」へとつなぐ

創業の理念は「会社のための社員ではなく、社員のための会社である」「欲しい時に欲しいパッケージを届けるのが高木の方針である」と、正年氏からよく聞かされてきた髙木社長。「やり方は変わっていますけれど、根本的に大事にしている言葉です。私に代わってから、『包む』を軸として新しい価値と愛と夢を持って創造する会社、という理念を持っております」と強調する。

コロナ禍の中、同社の新企画製品が次々と開発された。開発部チームの6人のメンバーで「TKG（タカギ）ブランド」に取り組んでいる。髙木社長は「みんなで新しいものを考えようという時間が増えました。いろんな意見を出し合い、その中から必要なものをという考え方で新製品が出たんです。それと、デザイナーがすごく設計力に長けていました」と声を弾ませる。

まずパーテーション。最初に出たのが「コモルーノ・デスク」。そこから一時透明のフイルムが無い状況下で考えたのが、クリアファイルを差し込んで連結させた「コモルーノ・プレミアム」。今度はイベントが減少する中、新しい生活スタイルとして家族や少人数のパーティーなどに使えるコンパクトな抗菌加工の紙のトレー。夏場のBBQやキャンプにも打ってつけの「ハコボーノ」の開発に発展させた。

「バッグになっていて、それをバカっと開けたらこれが机になっている。そこに紙のトレーが4つ、段ボールの椅子が4つ入っていて『どこでもソーシャルディスタンスをとって楽しめますよ』という商品にバージョンアップさせているのです」と話す。

抗菌の段ボール製トレー「ハコボーノ」。組み立てが簡単で、少人数の会食が楽しめる

その他、段ボールケースが簡易トイレに早変わりする「カワルーノ」、組み立て式簡易ベッド「やさし～寝（ネ）」もあり、組み合わせでソファーやイスにも利用可能。「3・11」から「防災グッズ」として段ボールケースの概念が「運ぶ」から機能性が高まった。「段ボールって結構温かいのですよ」と推奨する。

東日本大震災から10年が経過した。髙木社長は「業界全体的にちょうどSDGsの地球環境に良い商品ということで、すごく考え易く、お客さまが受け入れ易くなりました。次々と新しい商品を作るのを、みんなが楽しくやっています。だからこんなに出来上がってくるんです」と笑顔をこぼす。

ベッドの「やさし～寝」は災害時、避難所の体育館などで活かされることに期待。「カワルーノDX（デラックス）」は非常用段ボール製トイレセットとして、平成28（2016）年の熊本地震発生時に提供した経緯がある。

「椅子代わりに使ってもらい、座り心地が良いと大変喜んでもらえましたが、この中に紙が入っているんです。フランス製の特殊なもので、吸水性があります。飛び散らずにできるということで評判が良かったようです。後は病院関係などの評判が良かったです。特許も取っていますので」と話す。

今年のテーマは、「強みと強みを生かして総合的につなぐ」こと。奈良県の柿渋の加工品に期待を寄せる。「今の環境問題にも対応できるように、それでお皿や、弁当箱などになったら食品を乗せても安心して使える。奈良県特産西吉野の柿を使った柿渋。シートメーカー、奈良県産業協同組合、近大の産官学で作り上げられたら、奈良県自体が活性化すると思うんですよね」と次の段階へ踏み込む。

やまと真空マスクと石鹸のおしぼりをセットにした、新ブランド「薑（HAJIKAMI）」

「西吉野の柿の箱というのが、うちの中では単月で一番たくさん出る商品なのです。柿好きのお父さんの思いがいっぱい詰まっています。あのケースは簡単なようで、結構難しいのです。素材が固いし重たい。自動で作るから割と精密な技術もいります」と力が入る。

女性社員は16人。去年、採用した新入社員7人の中で、大分、静岡出身の女性2人を営業に配属した。その行動力を温かい目で見守る。コロナ禍の中の9月末決算は微増だが、102％の売上実績だった。3月期に限っては110％に数字を伸ばした。

「うちのお父さんが『俺のことはいいから会社に戻ってくれ』と入院してもずっと言い続けていました。だから本当に、寂しい思いをさせながらも、『今期だけは数字を落としたらあかん』と、みんな執念で頑張ってくれました」と唇をかみしめる髙木社長。

正年さんの誕生日は3月8日。84歳になっていたであろう誕生日に立ち上げたのが新しいブランド「薑（HAJIKAMI）」。商標も取った。パッケージには『逆境に負けるな！強く生きろ！』と「名誉会長髙木正年」名のメッセージ。開けると、やまと真空マスクと高木包装の顧客である溝端紙工印刷の石鹸のおしぼりがセットになっている。まず、父親がお世話になった人たちに贈った。

再来年（2023年）の稼働に向けて、葛城市疋田に新工場建設計画を持つ同社。髙木社長は働いている人を楽しくできる「TSJ」構想をスタートさせる。「『タカギスタジオジャパン』という、エンターテインメントのような工場に生まれ変わらせて、地域の子どもたちがちょっと見に来て、『この工場、楽しそうやな』と思ってもらえるようにしたい」と目を細める。

「こどもミュージアム」がその一つ。トラックの後ろや機械に子どもらが描いた絵をラッピングするという。「『自分のお父ちゃんやお母ちゃんが行ってる会社に行きたい』と思ってもらえるようなことをしないと、いくら良い機械を入れても、やっぱり優れた人がいてないと企業って続かへんと思います。そこのところを私は最も大事にしたい。お父さんの思いをつないで、また次の世代につなぐっていうのは、私の使命やないかと思っています」と期待を膨らませた。

株式会社　高木包装

○創業＝昭和30（１９５５）年
○代表取締役社長＝髙木美香
○従業員数＝97人
○資本金＝１２００万円
○事業内容＝段ボールケース製造企画販売
○年商＝30億円
○本社住所＝葛城市薑74―２
○電話番号＝０７４５（65）１１３３
○ファクス＝０７４５（63）１１１１

https://takagi-hoso.com/